



在日大韓基督教会
宣教 100 ~ 110 周年標語
감사의 백년, 소망의 백년
感謝の百年、希望の百年
(데살로니가전서 5:18)

3月1日(土) 2011年 第695号

発行所 福音新聞社

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18

電話 03 (3202) 5398

発行人 / 崔栄信・編集人 / 洪性完

fukuinshinbun@kccj.jp

info@kccj.jp

総会長挨拶

–2011年各地方会総会에 부쳐서 –

聖ヶ丘教会朴壽吉牧師就任

日本基督教団との宣教協力の象徴

〈主 예수님의復活을 믿사오니 그恩惠를 헤아리기에 足한 信仰을 우리 在日大韓基督教会에 許諾하옵소서〉. 지난 1年을 뒤돌아 보면 総会와 地方会의 繁密한 紐帶關係가 어느 때보다도 要請되는 때에 各地方会에서 定期總会가 開催될 수 있음을 真心으로 感謝드리오며, 더불어 우리가 記憶하고 함께 祈祷해야 할 内容들이 共有되는 時間이 되시기를 付託드리며 삼가 인사 드립니다.

I. 東日本大震災被災支援

教会란, 마음을 다하여 하나님을 사랑하고, 그 사랑을 이웃에의 関心으로 나타내는 것이며, 〈가서, 너도 이와 같이 하라〉는 말씀을 繼続 듣는 것이 教会입니다. 主 예수님으로 인하여 他者와 그 生命에 関心이 열리면서, 東日本大震災 以後 被災者와 避難者, 특히 関東地方会 東北地域의 被災教会 및 聖徒들의 苦痛과 労苦에 答할 수 있는 저희 総会가 되기를 願하면서 慰勞의 말씀과 더불어 災害復旧를 위한 関東地方会의 수고에 感謝드립니다. 또한, 클린 에너지라 믿어 온 原子力發電이 가져온 放射能恐怖를 通하여 現地에 있는 그들이야 어떻든 우리 自身의 安全에만 関心을 갖고 마는 心靈의 가난함을 悔改합니다. 그리고 大震災後, 日常生活 속에서 計画停電을 겪으면서, 우리 스스로 儉約生活과는 無關하게 살아 온 것이 아닌가 反省합니다. 우리들의 教会 또한, 豊饒로움을 追求하던 것은 아닌지 스스로를 돌아보지 않을 수 없습니다. 被災支援을 위한 ボランティア 活動은 社會委員會를 中心으로 긴 時間 동안 運用될 것입니다. 이웃과 더불어 살아가는 在日大韓基督教会의 姿勢가 貴重한 献金과 募金들이 어떻게 쓰이느냐로 나타나리라 믿습니다.

II. 第51回定期総会準備

(2011年10月9日午後7時~11日午後4時)

第51回定期総会의 開会礼拝를 처음으로 主日 저녁에 드리기 위해 準備 中입니다 (2011年10月9日, 午後7時). 금번 총회는 第44回定期総会 (1997年) 以来 14年 만에 西南地方会에서 개최됩니다. 우리의 主人되시는 하나님께서 多樣性 가운데 一致를 体現하는 総会가 되게 하여 주실 줄 믿습니다.

〈 豊饒한 教会도 가난한 教会도 모두 同等하게 主님에 의하여 세워지어 主님의 봄된 教会로 사는 무리로써, 지금 마음 속 깊은 곳에서 우러나오는 讚揚을 노래하게 하옵소서. 이 讚揚과 祈祷가 지구를 애워 사는 곳, 하나님의 平安이 넘치는 教会로서 이 場所를, 이 때를, 여기 모인 모든 者들을 聖別하여 주옵소서 〉

2011年4月復活節朝, 在日大韓基督教会総会長 崔栄信牧師

在日大韓基督教会は、1984年2月8日以来、日本基督教会と宣教協約を締結して、今まで協力し合って来た。多くの協力関係の中で、象徴的な出来事であると言える行事が、去る5月1日に、日本基督教団聖ヶ丘教会で行われた朴壽吉牧師(前、総幹事)の主任担任牧師就任式である。

この喜ばしい就任式を迎えて、本総会の総会長(崔栄信牧師)と総幹事(洪性完牧師)は、KCCJを代表してお祝いの挨拶を伝えた。総会は、両教団の歴史的関係を踏まえながら「それぞれの教会の歴史とその独自性に立って、より深い教会的交わりと宣教協力関係を樹立した。そして、日本における福音宣教の新しい次元をつくり出すものだった」と評価した。そして、「聖ヶ丘教会が、なお、聖靈に満たされ、福音の真理を世に証しし、いよいよ主の栄光を現しますように」と祝った。

この歴史的な牧師就任式の司式と説教(「私の羊を飼いなさい」(ヨハネ21:15-19))は、日本基督教団東京教区総会議長代理であり、西南支区長である及川信牧師(中渋谷教会)が奉仕した。さらに、この就任式に参加した来賓と教員による感謝と祝福の献金は、受付に設置した義援金箱に入れるようにした。この献金は、東日本大震災被災教会のために捧げられた。朴壽吉牧師の就任式は、主日の午後3時から行われたため、総会を代表して総幹事(洪性完牧師)が参加して、共に祝い、共に喜びを分かち合った。

(報告:編集部)



就任式のあと、記念撮影

2010年ハイチ大地震 緊急募金報告 *総会事務局到着順 /2011年3月末現在

| 教会・団体 | 金額 | 教会・団体 | 金額 |
|-----------------|---------|----------|---------|
| 郡山伝道所 | 3,000 | 大阪平康教会 | 5,000 |
| 三次教会 | 15,000 | 名古屋教会 | 345,200 |
| 日立教会 | 10,000 | 東京綾瀬教会 | 5,000 |
| 長野教会 | 48,000 | 大阪北部教会 | 100,000 |
| 名古屋教会 | 18,650 | (同)女性会 | 148,178 |
| 永和教会 | 53,000 | (同)学生会 | 20,000 |
| 品川教会 | 20,000 | (同)教会学校 | 10,000 |
| 東京日暮里教会 | 68,500 | 浜松教会 | 14,080 |
| 大垣教会 | 18,000 | 岡山教会 | 32,000 |
| 平野教会 | 30,200 | 和歌山第一教会 | 79,500 |
| 三次教会 | 40,798 | 博多教会 | 41,000 |
| 東金伝道所 | 3,000 | 東京第一教会 | 50,000 |
| 豊中第一復興教会 | 15,690 | 岡山教会 | 32,000 |
| 武庫川教会 | 52,000 | 新潟教会 | 20,000 |
| 豊橋教会 | 52,700 | 西新井教会 | 95,021 |
| 沖縄教会 | 44,660 | 小倉教会 | 47,271 |
| 京都教会 | 187,435 | 神戸教会 | 95,200 |
| 大阪第一教会 | 25,450 | (同女性会) | 38,564 |
| 新居浜グレース教会 | 68,129 | 福岡中央教会 | 30,000 |
| 東京教会 | 112,282 | 聖山キリスト教会 | 50,000 |
| (同)女性宣教会 | 337,508 | 愛隣伝道所 | 30,000 |
| 京都南部教会 | 47,600 | 布施教会 | 40,000 |
| 堺教会 | 28,000 | 武庫川教会 | 100,000 |
| 大阪教会 | 455,715 | 大阪西成教会 | 71,213 |
| 横浜教会 | 38,000 | 堺教会 | 8,000 |
| つくば東京教会 | 47,000 | 平野教会 | 43,000 |
| 浪速教会 | 40,428 | ハンサラン教会 | 45,200 |
| 合計: 3,403,374 円 | | | |

*募金された全額は、NCCを通して寄付されました。

2011年度 会長会議・一日研修会

去る2月24日(木)、西部地方教会女性連合会主催による、2011年度会長会議・一日研修会が神戸東部教会にて開催された(34名出席)。開会礼拝は、姜良姫副会長の司会により始まり、褒明徳牧師(神戸東部教会)が「御ことばと共に」(申命記6:4~9)と題してメッセージを行った。引き続き、会長会議では、沈貞児会長の挨拶と5教会(川西、神戸東部、神戸、岡山、広島)の各女性会会長より活動報告がなされた。それぞれ人数や状況も異なっているが、どの女性会も教会において大切な役割を担っており、多くは活発に活動している事が分かり、お互い励みになった。そして、会員たちは神戸東部教会女性会の心のこもって奉仕した料理をもって美味しい昼食を共にすることが出来た。

また、午後からの研修会では、李華順会計監査の司会で、開会礼拝に引き続き褒明徳牧師(神戸東部教会)を講師に迎えて、「御ことばと共に」と題しての講演があった。褒牧師は、神さまからの「地上命令」である、「地の果てに至るまで」という御言葉を述べ伝えるための人材を育てる第一歩が、「一対一」であることを教えた。さらに、この「一対一」こそが「神の御言葉を正確に知る必要があることである」と強調した。参加者たちは、この教えにより、「聖書の御言葉に對して眞実に向き合うこと」と、「それによって抱ける希望」が与えられた。

(報告:李炫知書記)



在日同胞文化の創造と多文化共生社会を目指して2006年4月25日、創立100周年を迎えました。



- ◆東京で一番安く便利な宿泊研修施設(ホテル): フロントは日・韓・英語を対応、24時間サービス。10名様から2020名様の会議及び宿泊研修(50名様)も可能。
- ◆スペースワイホール: 220席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに最適
- ◆韓国文化(チャング・カヤグム・舞踊)教室・韓国語講座・各種こどもクラス
- ◆YMCAアジア語学院(日本語学校) ※会員及び教職者割引有

| (税込み) | 平日 | 休・休前日 |
|-------|--|---------|
| シングル | ¥6,300 | ¥5,040 |
| ツイン | ¥11,550 | ¥9,240 |
| トリプル | ¥14,490 | ¥11,592 |
| 朝食 | ¥200 カルビックッパ、コムタン、ユッケジャン、韓定食、洋食(全メニューコーヒー付き) | |

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-5-5 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
関西韓国YMCAアジア青少年センター〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

創世記連続講解 (3)

尹宗銀 牧師
(横浜教会名誉牧師)



創世記4章

創世記4章の主題は、『カインとアベルの献げ物』であるが、それを分解すると6項目に分けられる。3章では罪が世に入って来た経路を記録したのであったが、本章では罪が既に人間の心の底まで深く浸透した事実を記録している。

- ① 1-2節：カインとアベルの誕生の記事である。
- ② 3-7節：カインとアベルが献げ物をする。
- ③ 8-12節：カインが弟アベルを撃ち殺す記事である。
- ④ 13-16節：カインが受ける刑罰を恐れている姿を描いている。
- ⑤ 17-24節：カインの子孫と彼らの文明について記している。
- ⑥ 25-26節：アベルの代わりにセトとエノシュの誕生の記事がある。

アダムの罪は、既に子孫に遺伝され家庭に悲劇をもたらした。カインとアベルは兄弟で、二人共に神に献げ物をした。カインは自分の『土の実り』(自義)を献げ、アベルは牧羊の関係上羊の初子を献げた。この二人のことに対してヘブライ書記者は、『アベルはカインよりも優れたいけにえを神に献げた』(ヘブ11:4)とする。

いけにえを受け入れた証拠として天の火から燃やす事で証明した。神はアベルのいけにえを受け入れ、カインの形式的ないけにえを受け入れなかった。これに対してカインの態度は弟アベルの祝福の方法を見ながら、それに倣うという考えを持たずに、むしろ妬み殺害することによって、悪をもって善に敵対した。

アダムが蒔いた罪の種はカインにおいて実っていた。神はカインに事前に反省の機会を与えたが(6、7節)、彼は悔い改めないで、むしろ神を無視して反抗した(9節)。神は、再度悔い改めを促したが、反省せずに(11節)、呪われる者となつた。カインは罪を認識し罪の結果を悲しみ、人を恐れた(14節)。しかし真心をもって神を恐れないで罪を悲しまなかつた。しかし神は、彼に恵みの〔しるし〕(oth, mark)を与えた(15節)。

わたしたちは罪に対する神の愛に感嘆する。ここから自義と他義の二大潮流はキリスト教歴史上今まで相反して流

不動産管理
アルカンシェル名駅
李光世
(名古屋教会長老)

〒453-0013 名古屋市中村区亀島2-2-27
電話・FAX 052-451-7713 携帯 090-3578-7571
E-mail:kwangse.lee@nifty.com

れている。カインは最初の迫害者であり、アベルは最初の殉教者である。カインの子孫エノク(Enoch)とその子孫レメク(Lamech)の法は、世界最初の法で武力主義・軍国主義の法となつた。武力主義は不道徳を礼賛する軍国主義の始まりである。つまり殺人者であるカインの遺産である。

創世記5章

創世記5章の総主題は『靈の子孫の系図』であるが、分解すると3項目に分けられる。

- ① 1-20節：アダムからイエレド〔Jared〕までの系図。
- ② 21-24節：聖なる者エノク〔Enoch〕の生活と昇天。
- ③ 25-32節：メトシェラ〔Methuselah〕からノア〔Noah〕まで。

本章は、アダムからノア〔Noah〕までの系図である。系図は、英語訳では〔the book of the generations〕と訳されている。4章は、肉の子孫の系図であり、アダムからレメク〔Lamech〕までの系図であったが、本章の記事を見れば、『もうけた』〔begat〕と『死んだ』〔died〕と言う生死、二字で反復されている。幾ら長寿した者であっても『死んだ』という簡単な言葉で終わっている。

それゆえに本章は『罪の価は死である』と言う鉄則を雄弁に証明している。そういう中にあっても死が命に呑み込まれたと記録している。それはエノクが神と共に歩み、神が取られたのでいなくなつたのである(22-24節)。彼は、隠遁生活や禁欲生活をしたのではなく、平常の人のように複雑な家庭生活や子女を生み育てながら神と300年間共に歩まれた。

聖潔な生活を持って神を喜ばす者は、天に移される前に、証明されたとヘブライ書記者は証言している(ヘブ11:5)。これまでアベル以外に死んだ者はアダムだけである。神は、罪の価は死であると言う事実はアダムの死をもって証明すると同時に、エノクを通して死の力を克服して永遠に生きられる道も示された。言い換えるならば、アダムに属する者は死ぬと同時にキリストに属する者は生きられると言う真理を表明された(コリント一15:22)。

レメク〔Lamech〕は、その子をノア〔Noah、(慰め)〕と名付けた。4章での肉の子レメク〔Lamech〕は殺戮〔slaughter〕の歌を歌つたが、本章の子レメク〔Lamech〕は慰め・安息の歌を歌つた。二人の名前は同じであるが、歌は異なると同時に靈・肉の差も相異なる。ノアは五百歳になつた時、セム〔Shem〕、ハム〔Ham〕、ヤフェト〔Japheth〕をもうけた。

株式会社 ニューキング
有限会社 三愛
取締役社長 李鍾善 (名古屋教会長老)
ニューキング 四日市市野田1丁目965-1
TEL 0593-31-4771(代)
三愛 岡崎市大和町字荒田14-1
TEL 0564-31-8893(代)

<コラム94>

青年会全国協議会と韓国民主化

李清一 (歴史編纂委員会)

昨年(2010年)9月、韓国の「民主化運動記念事業会」(記念事業会)の史料館長から突然、1974年4月と6月の2回にわたって実施された「韓国の拘束者の家族のための大バザー」についてのインタビューの申し込みがあった。この記念事業会は、韓国の民主化運動を記念し、その精神を継承するための事業を実施することによって民主主義の発展に寄与することを目的に、2001年6月に民主化運動記念事業法によって設立された。

記念事業会が関心をもつ「韓国の拘束者の家族のための大バザー」とは、在日大韓基督教会の青年会全国協議会(全協)と日本アムネスティの協同でなされたものである。4月には東京の山手教会(日本基督教団)で、6月には大阪のKCCで、各々2日間ずつ開催され、純益は200万円を超え、折半された全協分は、韓国のNCCを通して拘束者家族へと手渡された。

すでに36年という年月が経っていたが、これらの事実関係を知り、韓国の民主化運動を支えた一里塚として記録に留めるためにスタッフを派遣してきた「記念事業会」の働きには、改めて驚かされた。バザーを主体的に担った全協がバザー開催に至るまでには、種々の過程を経ていた。

解放後、在日大韓基督教会は、1945年10月に「在日本朝鮮基督教連合会」を組織して、再出発した。青年会もその組織化に向けて動きを進めていたが、46年9月の第2回定期総会で、青年会名称を「勉励青年会」とすることが決議される。そして、翌年の第3回定期総会では、「勉励青年連合会組織を総会直轄とすることが決議された。

1950年度の教会教勢統計表によれば、青年会組織は18教会中12教会にあり、その会員数は371名となっている。この頃の勉青連合会の主な活動は、夏期修養会の企画と準備であった。戦後の修養会の開催は、48年8月に比叡山で行われたものが最初であった。それ以降、50年を除いて毎年、実施された。

青年会組織としては、1948～52年の勉励青年会連合会から、52～63年の勉励青年会中央委員会(地方会青年会より中央委員を選出した)へと変遷している。この後者の時期には、52年に設置された青年局の指導のもと、自主的な組織として運営されるようになる。54年(第10回定期総会)において総会は「青年主日」を定め、その主日献金の半額を青年運動のために用いることを決議している。そして、63年以降は、青年会



修養会、1956年 東山地方会連合会の会長及び個教会青年会からの代議員によって構成される青年会全国協議会(全協)となった。

この組織改編によって全協は、個教会青年会と直接繋がることとなり、夏期修養会の実施のみでなく、1969年からは全協主導による春の指導者研修会を通して、個教会の抱える課題や意見を受け止め、全国的な規模でより主体的な活動を展開していくこととなる。

また、同じく1969年には入管法改悪反対運動を展開し、社会参与を開始している。73年12月には、韓日閣僚会議反対の抗議文を発表すると同時に、東京数寄屋橋においてハンストを行うなど、数多くの声明書や宣言文が出された(『全協のあゆみ』)。74年1月の指導者研修会で出された決議文の行動目標には、①韓国の民主化支援、②在日韓国人の基本的人権の確保、③在日大韓基督教会の変革などが挙げられている。「韓国の民主化支援」は、72年7月4日に発表された南北共同声明や、その後の南北実務者会談などの南北対話への関心の高まり、そして73年5月20日付で韓国のキリスト者から民主化のための連帯を求めて出された「1973年韓国キリスト者宣言」などへの応答であったといえる。73年12月8日付の全協声明文には、「われわれ在日韓国人キリスト者青年は、現在、祖国の地で命を賭して自由回復と人権確立のため戦っている同胞を支援しつつ、この地における差別・抑圧状況を満身の怒りをこめて糾弾し、行動することを声明する」とある。

これらの訴えの延長線上に、「韓国の拘束者の家族のための大バザー」が実施された。当時の在日大韓基督教会においては、全協のこれら一連の働きについて批判する人たちも多く見られた。しかしながら、一部の青年の動きのように思われたこれらの働きは、30数年の歴史を経る中で、在日大韓基督教会全体の貴重な財産となっているといえる。時の微に敏感な若者の感性の大切さを今改めて思い知らされる。